

福音とは、

神ご自身が私のすべての始まりとなる道がある、という良い知らせです。

(ヨハネの福音書 14:6)

『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人、父のみもとに来ることはありません。』

1. 根本問題とは、出発が間違っているということ

- 1) 最初のボタンを掛け違えたことを知らず、全部のボタンをはめてしまったワイシャツ
- 2) ほぼ組み立てが終わった自動車のエンジンルームの上にネジが一本余っている
- 3) 外科手術の縫合が終わった後、手術に使ったハサミが見当たらないような状態
- 4) 子どもが替わったことを知らずに十数年を過ごしてしまった二つの家庭

☞ 主なる神を拒み、神が主であることを認めない状態では、何をしても問題となる

「すべての人は罪を犯したので ……………」(ローマ3:23)

「罪の報酬は死である ……………」(ローマ6:23)

2. 信じながらも新たに決断できない理由 — 福音に対する誤解

- 1) 御言葉を聞くだけで従わずに生きるのは苦しく、信仰によって従おうとすると失うものが多すぎる？
- 2) イエスに従うために自分を否むと、今までの人生を惜しく感じられ、かといってこれからも中途半端に生きるのは信仰的に腑に落ちない？
- 3) 自分ひとりなら何とか御言葉通りに従ってみようと思えるが、自分とつながっている多くの人に思いがけない迷惑をかけてしまうのではない？

☞ 確かなことは、今のままの生き方に留まっている限り、何も変わらない。

「肉の願いは御霊に逆らい、御霊の願いは肉に逆らうからです。これらは互いに対立しているので、あなたがたがしたいと思うことをできないのです。」(ガラ 5:17)

3. 福音とは、問題が問題でなくなるのではなく、どのような問題も問題ではない方 — 神が私の主となられる道です。

- 1) 自分が主となっている状態から早く降りなさい。
- 2) 問題への思い、問題への不安、問題解決への執着こそが、自分が主である状態から抜け出せないようにするサタンの常套手段である。
- 3) 問題を解決しようとも、諦めようともせず、今このままの姿で「イエスがキリスト、私の主です」と神に告白し、人々に宣言しなさい。

「イエス・キリストを信じていても問題が終わらない」のではなく、「イエス・キリストを約束通りに正しく信じていないから契約が成就していない」のである。

結 論

イエス・キリストは、完全に私の主となられるときのみ、私にとって福音(良い知らせ)となります。

しかし、完全な主となれないなら(=私が依然として主であるなら)、この地上に生きている間はイエス・キリストはしつこくつきまとう「福音ストーカー」のように感じられ、死んだ後にはその福音によって裁かれる裁き主となられる(Ⅱテモテ 4:1)。

「神の御前で、生きている者と死んだ者をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れと御国を思いつつ、厳かに命じます。」